

新会長 ご挨拶

本会は今年で21年目を迎えます。この間にわが国の少子化は加速し、子どもの貧困や虐待、ヤングケアラー、教育格差、不登校や自殺、ゲーム依存など、子どもと家族を取り巻く環境は大きく変化しました。2023年には「こどもまんなか社会の実現」に向けて「こども家庭庁」が創設されました。私たち小児看護にかかわる者もまた子どもをひとりの人として尊重し、子どもの声に真摯に耳を傾けていくことが求められています。また、子どものケアや育児を担っている家族に敬意を払い、家族とパートナーシップを形成し、協働して適切な支援の実現が重要と考えます。

子どもと家族の支援に役立つトピックスの発信とともに、新潟県内の小児看護の質向上と子どもの健康増進や成長発達促進に寄与することをめざして、保健・医療・福祉・教育の多方面から子どもと家族を取り巻く諸問題について皆様とともに考えていく活動を進めてまいります。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。これからも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



第9代会長 大久保明子（新潟県立看護大学）

第24回 研究会

小児看護におけるこれからの人材育成

日時：2023年9月30日（土）13:00～15:30

会場：新潟医療人育成センター（ハイブリッド開催）

近年の少子高齢化や医療構造の変化、医療技術の進歩により、小児科病棟の閉鎖や縮小、成人患者との混合病棟への移行が増え、小児看護に従事する看護師の数が減少しています。小児科病棟へ異動や入職により看護師が配属された際には、小児看護の経験を積み重ね、本来経験することで得られる知識の獲得が困難となることが予想され、その一方で、小児科病棟経験の浅い看護師を指導できる看護師も減少しています。

今回は、これからの小児看護の人材育成や継続教育についての現状や課題を知りその解決策のヒントを得る機会を設定したいと思いシンポジウムを企画しました。

済生会横浜東部病院看護部長で小児看護専門看護師の渡邊様からは、人口構造や疾患の変化といった社会的背景や地域包括ケアシステムについてわかりやすくお話しいただき、神奈川県と

共同して地域全体で看護師を育てる先進的な取り組みをご紹介いただきました。また新潟県立中央病院の新生児集中ケア認定看護師の庄司様からは、小児と成人の混合病棟の現状と教育システムをご紹介いただき、今後の課題について共有していただきました。

今回はコロナ禍を経て4年ぶりの対面開催となることと並行してZoomでもシンポジウムに参加していただけるようにハイブリッド開催を試みました。当日は県外からもZoomで参加していただき、コロナ禍を経て新たな学びの形を提供できた研究会になったと感じています。

企画担当 小林美恵子（国立病院機構西新潟中央病院）
佐藤由紀子（新潟大学）
和田由紀子（新潟青陵大学）

地域で取り組む小児看護師育成のヒント

渡邊 輝子 氏

（済生会横浜市東部病院 看護部長 小児専門看護師）

課題

・高齢者の増加に伴う医療・介護のニーズや、複数疾患を有し療養生活をする人が増加する一方で、神奈川県では看護職員就業率の低さと離職率が課題となっている。

かながわ地域看護師養成について

<目的>

①地域医療構想と地域包括ケア時代に相応しい看護師の確保と養成を地域全体で取り組むこと。

②看護師の離職、地域からの流出を防ぐこと。

<プログラムの実際（横浜市鶴見区）>

①人材交流の2つのかたち

「循環型（つばさナース）」：所属施設に籍をおいたまま他事業所での勤務を経験し所属施設へ帰任する。

「養成型（つばめナース）」：地域枠看護師として採用され複数の施設を経験した後所属施設を決定する。

②プログラム参加者の声

・4-5年間で急性期と慢性期を経験できるのは魅力だった。

・看護観、今後の方向性が明確になった。

・異動は不安だったが両施設で定期的に面談があり安心した。

③まとめ

・「病院に就職」から「地域に就職」視点への転換。

・地域全体で病床を確保し、必要時人材を outward させる。

・ライフステージに応じた勤務選択、働き続けやすい環境作りが必要である。

・継続看護を学び多領域に対応可能な看護師育成が期待できる。

本院の院内交流研修の実際（小児領域）

<目的>

キャリアビジョンを明確にし、こども・家族の誕生から成長、疾病、障害に寄り添う幅広い知識と技術を身につけた看護師を育成する。

<研修内容/対象者>

「重症心身障害児（者）施設」「こども病棟」

「NICU/GCU」3部署での交流研修

①ラダーⅠレベル研修の期間：3日間

②ラダーⅢ（以上）レベル研修の期間：3ヶ月間

<研修からみてきたこと>

小児領域部署の機能や連携に関して知り、看護を振り返ることができた。広い視野で看護を考え、自部署の看護や教育を振り返る機会となった。

小児看護の人材育成に関する課題と取り組み

庄司 なおみ 氏

（新潟県立中央病院 新生児集中ケア認定看護師）

現状

・小児科・NICU・小児外科・眼科・呼吸器内科・呼吸器外科・総合内科の混合病棟で「小児科・他科」「NICU」の2チームによる看護体制をとっている。

・小児看護経験者の減少や、看護業務内容の違いがある中で、小児看護の充実化や1つの病棟としてまとめる体制作りに尽力している。

教育システム

・配属が変更になる際は「転入者チェックリスト」を配布し周知を図った

・新しい配属先でPNSのペアとともに1・3・6・12ヶ月ごとの振り返りを充実させた。

・NICUでは可能な限り約1ヶ月間は3人1組で患児を担当した

課題

・小児看護経験者が減少する中で小児看護のOJTの人材確保

・限られた小児の症例の中でのOJTをいかに補うか

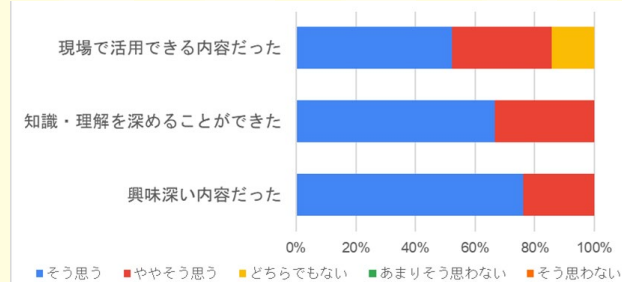
・小児科病棟としての役割と混合病棟としての運営の両立

・小児看護に携わる看護師という意識の向上やモチベーションの維持

参加者の声

多くのご意見・ご感想をありがとうございました

【参加者アンケート】 (n=21 回収率58.3%)



【ご意見・ご感想】

- ・地域で活躍する人材育成の参考になった。
- ・育つ環境を病院を超えて整えていくという事例を聴くことができてとても刺激を受けた。
- ・行政を巻き込む事で他施設との協働が可能なることを知った。
- ・人材交流制度について、とても興味深く、新潟でも実践検討していけるとよいと思った。

【ご参加いただいた職種】

- ・看護職（管理職、プリセプター、教育担当ほか）、看護教員

ドナルド・マクドナルド・ハウスの活動について

ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた 稲川 欣也 氏

病気の子ども（以下、患児）をもつご家族は絶えず不安な日々を送っています。更に、治療のため入院・通院する病院が自宅から遠く離れている場合、精神的・肉体的・経済的にも大きな負担を強いられます。ドナルド・マクドナルド・ハウス（以下、ハウス）はこのような患児やご家族のための滞在施設です。ハウスは「わが家のようにくつろげる第二の家」をコンセプトに、日常生活を円滑に送ることができるように、自炊ができるキッチンやダイニング・リビング・ランドリー・キッズルームを完備し、プライバシーを守るように配慮したベッドルームを用意しています。また、ハウスの運営費は企業や個人からの寄付・募金によってまかなわれており、利用ご家族はお一人一日1000円で滞在することができます。また、日々の運営は多くのボランティアさんの協力によって支えられています。ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた（以下、にいがたハウス）では200名を超える方々に登録をいただき、ハウス内をいつも清潔に保っていただいています。

「にいがたハウス」は2022年10月のオープンから約1年半が経過し、2023年は356組（宿泊数2062泊）のご家族にご利用いただきました。利用ご家族のお住いの地域としては新潟県内の方が87%となりますが、その中心は上越市、長岡市、村上市と遠方の方のご利用が目立ちます。また、診療科としては70%が小児科の患児となります。日々、ご家族と接する中であらためて、患児のご家族が置かれている状況はご家族ごとに異なることを痛感しています。そのため、現場では一律の対応ではなく、ご利用者のニーズを理解し、向き合う姿勢を大切にしています。そして、付添いご家族の心の安定は患児の病状に少なからず影響を与えて

いると言われています。患児のためにも、ご家族が笑顔であり続けること、そのためにはご家族の不安を少しでも解消し、安心して生活が送れる場所が必要です。「にいがたハウス」は、そういった場所を医療従事者や地域社会と一体となって提供し、患児や付添いご家族一人ひとりに寄り添っていきたいと思っています。

最後になりますが、ハウス運営費の寄付をHPで受付しております。ご支援のほど、何卒宜しくお願いいたします。（「寄付の使途」は「にいがたハウス」を選択ください）



2024年度 新潟小児看護研究会のお知らせ

テーマ 発達障がいのある子どもの理解と痛みへのケア

講師 有川 宏幸氏 新潟大学教育研究院人文社会学系教育学系列 教授

「行動」には理由(わけ)がある(明治図書出版)他多数

伊藤 舞美氏 医療法人社団まなと会 はしもと小児科 看護師長

雑誌 小児看護 連載「外来で役立つ小児看護技術」他多数

日時：2024年9月28日（土曜日）13:00～15:30

会場：新潟大学医学部保健学科 ヘルスサイエンス室（A棟4階）

参加費：非会員1000円 会員500円

申込先：右のQRコードまたは研究会HPより申し込みください

オンデマンド配信あり！
お気軽に
ご参加ください

お申し込みはこちら



会員募集

新潟小児看護研究会では、入会希望の方をお待ちしております。
入会をご希望の方は 事務局までお問合せ下さい。

【新潟小児看護研究会事務局】

小林宏至（新潟県立看護大学）

船岡未恵 沼野博子（長岡崇徳大学）

〒940-2135 新潟県長岡市深沢町2278-8 長岡崇徳大学

e-mail: info.niigatachild@gmail.com



<第34号ニュースレター担当>

大久保 明子（新潟県立看護大学）

小林 美恵子（国立病院機構 西新潟中央病院）

沼野 博子（長岡崇徳大学）

